

認知グループ

平成 29 年度 第 3 回 議事録

【年間テーマ】

スピーチロウクと抑制廃止に向けての取り組み

平成 29 年 9 月 1 日提出

日付	平成 29 年 8 月 26 日 (土)			
場所	センターサザナ		記録者名: 月屋 じゅん	
出席者 (敬称略)	藤井 佐和子	小松 亜梨沙	大津 佳春子	吉川 和則
	福間 弘	山下 礼子	寺尾 妙子	月屋 じゅん
	渡辺 加代子			
テーマ	1か月間スピーチロウクに対する強化月間を設けて取り組んだ結果。			
結論	各病院・施設ごとに月間取り組んだ後アンケートをした結果、意識が変わったと答えた方が半数を越えていた。一方、変わらなかつたと答えた理由として、「業務にゆとりがない時にスピーチロウクを使ってしまうのが多かった。業務効率と人員不足がスピーチロウクの大きな原因と考えられる。一方、代替語を使うことで患者さんが穏やかになったという意見もあった。			
決定事項	意識改革をする為には、 ①忙しい時ほど一呼吸おく ②つい出した言葉に気付いたら、言い直す。 ③他のスタッフに自分の言い方はどうだったか聞いてみる ④N、Cなどが多く余裕がない時は他のスタッフに協力してもらう。 ⑤客観的に自分を見る事が大切、自分の家族がされて嫌な事はいない			
備考				
次回討論項目	抑制解除に向けた取り組みを持ち寄り検討する。			

抑制廃止とケアの質を高める会 事務局

E-メールアドレス info@famcf.jp

(FAX.092-691-3961)